

## 埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

# 宿泊税がつなぐ、街の未来

羽生市立南中学校

一年 羽生 陽翔

この春、兄が京都の大学に通うことになり引越しの手伝いをするために母と京都に行きました。その時、宿泊したホテルで初めて「宿泊税」というものを知りました。僕は泊まるだけで税金がかかるなんて思ってもいませんでした。税という言葉が入っているので、消費税や所得税のような買い物や働いたお金にかかるようなものを思い浮かべました。帰宅後、宿泊税とはどのような税だろうと気になり、調べてみることにしました。

宿泊税は、二〇〇二年に初めて東京で導入された、ホテルや旅館に泊まるときにかかる税金のことです。これは現在大阪万博でにぎわっている大阪府や京都など、観光都市で多く導入されています。この税金で集まったお金は伝統の継承や保存、地域のゴミの回収や清掃活動の強化、外国人観光客のための英語や中国語での案内表示などに使われています。観光に来た人がこの宿泊税を払うことで、その街をもっとよくすることができます。

オーバーツーリズムが問題となっている今、僕はこの宿泊税の仕組みはとてもよいことだと思えます。観光客が増えれば街はにぎわい収入が増えます。しかし同時に、ゴミや交通マナーの問題も起こり、地域の環境や生活に悪い影響を与えている現状があります。僕が京都に

行ったときも駅や観光地では、外国人観光客でいっぱいでした。観光客の増加により街が混雑するオーバーツーリズムの問題に対して、宿泊税で得たお金を使い、観光案内所の整備や多言語表示の看板、マナー啓発活動に充てることは、とても効果的な使い方だと思います。また、宿泊税の使い道は他にもあります。例えば、観光客の安全を守るための監視カメラや無料Wi-Fiの設置、古い観光施設のリニューアルなどです。僕の住む羽生市は大きな観光地ではありませんが、二〇一〇年から全国各地のゆるキャラが一同に会する「世界キャラクタースミット」が行われ、たくさんの方が訪れるようになりました。最近では牧野富太郎が発見したムジナモが野生復帰したことで注目を浴びました。羽生には羽生市ならではの文化や自然が多くあります。今より多くの観光客が来てくれたときに、安心して楽しめるような市にするためには、宿泊税のような仕組みがとても役に立つのではないかと思います。

僕はこれまで税金に対して、難しいものというイメージがありましたが、こうした身近なところに税金が使われていることを知り、少し親しみをもつことができました。これからも税のことや使われ方について正しく知り、自分たちの生活にどう関わっているかを考えられるようになりたいです。